

情報モラル推進ボランティアより

情報
モラル

情報モラル推進ボランティアは、子どもたちのICT教育の充実に伴う危険性やモラルについて発信をしていく予定です。子どもたちだけではなく、私たち保護者も情報モラルについて知識をアップデートし学んでいきましょう。

1. 学校行事で撮影した写真の公開で起きたプライバシーの問題の事例

先日、SNSに1枚の写真が掲載されました。写真は学校行事で撮った子どもの写真でした。しかし、子どもの後ろには別の子どもが写っており、その子の許可も無くSNSに掲載されてしまいました。

写っている人の同意・許可のない写真の掲載やプライバシー情報の投稿などはNGです。特に学校行事の写真は学校名が特定されやすく、そこから個人が特定されることがあります。場合によってはプライバシー侵害や児童の権利侵害、名誉棄損、著作権侵害等で訴えられるケースもあります。

皆でルールを守り気持ちよく使用しましょう。

Q. 顔写真と名前が公開され起きる被害はどんなものが想像できるでしょうか？

● インターネット詐欺（ソーシャルエンジニアリング）

第三者（詐欺師）が偽のプロフィールを作成し他の人々を騙す行為。詐欺師は信頼性を高めるために実在する人物の情報を使用することがあります。被害者を騙し個人情報や資金を奪う可能性があります。

● ハラスメントの原因・要因

ネット上でのハラスメントや嫌がらせの対象になる可能性があります。また、想定と異なる用途で使用された精神的苦痛やストレスを受けることがあります。



これは1つの事例です。学校行事等で子どもの写真を撮りSNSを利用する場合など、プライバシーの侵害や著作権侵害など、自分が加害者になるケースもあります。十分に注意をしましょう。

2. ChatGPTのモラルに欠ける使用事例

ChatGPTを知っていますか？ ChatGPTとはコンピュータ(人工知能)が人間の言葉を理解し、応答するための技術(自然言語処理モデル)の1つです。大量の学習データを元に文章の理解、回答の生成を行うことができます。

ChatGPTは検索エンジン(YahooやGoogleの検索)とは異なり、質問や疑問に答えてくれます。また、回答も単なる情報提供だけではなく、会話の流れを持つことができます。

大量のデータを学習しているため、一般的な意見に関してはとても信頼性があります。特に広く知られている事実については正確な情報を知ることができます。

ただ、回答は必ずしも正確ではなく、最新の情報とは限りません。最終的な判断は利用者自身が行う必要があります。

『子どもがChatGPTを使用して宿題を終わらせようとした？』

ChatGPTを使用して日記や読書感想文などを代わりに考えさせるなど、小学生でも使用している事例が出てきています。大学ではレポートの作成に使用したり就職活動時の志望動機を作成したりと、モラルに欠ける使用事例が報告されています。

『ChatGPTに頼りすぎる弊害は？』

ChatGPTはどのような質問にも回答を出します。ChatGPTを使いながらも自分で考えないと知識や理解力が身に付きません。また、発想力や想像力が育たなくなってしまう。あまりに頼りすぎると、質問や疑問を持つことが減るため学習効果の低下が懸念されます。

『ChatGPTは禁止すべき？』

ChatGPT以外にもGoogleやMicrosoftもAIを公開しています。また、禁止したところで子どもたちは使ってしまうよ。とある専門家は、一度世に出てしまったものは元に戻らないと言いました。単に禁止にするのではなく、私たちも子どもと一緒に遊びながら試してみよう。ガイドライン、家族でのルールを作っていくのがよいでしょう。

『ChatGPTの使い道は？』

今後は入試や面接でChatGPTで答えが得られないような、もっと考える必要がある問題や、資料をもとに自分の考えを言うような問題が増えていくことが考えられます。自分の考えを更によいものにしていくために活用するとよいでしょう。

もっとシンプルに料理のレシピを考えてもらったり、旅行のプランを立ててもらったり、悩み相談に使ってみてもよいでしょう。

今後もAIと上手に付き合うことが求められます。苦手意識のある方も子どもと一緒に学んでいきましょう。

